

# カキ補完品目の生産安定支援

## 要約

カキの補完品目としてウメとスモモが栽培されているが、ウメは老木園が増えて生産が不安定で、スモモはいや地等による苗木の枯死が問題である。そこで、選果場、現地の巡回調査を行って実態把握すると改植時の土壌改良資材の現地実証に取り組んだ。

## 現状(背景)と課題

- ・ウメは老木化に伴い反収が減少している。
- ・スモモは改植によって増えているが生育不良や病害虫により収穫量は伸び悩んでいる。

## 目標

- (ウメ)
  - ・改植時の土壌改良展示圃設置
  - ・系統出荷量の増加
- (スモモ)
  - ・改植苗木の生存率
  - ・系統出荷量の増加

## 活動内容

(ウメ)

- ・生産状況調査(現地巡回調査25園地×4回)、選果場巡回(6回)
- ・実証園の設置と調査(6回)、園主部会との意見交換(2回)

(スモモ)

- ・現地、出荷場巡回指導(5回)
- ・実証圃巡回、調査(5回)

## 成果

- ・ウメ生産量が減少している原因として「授粉樹の量や種類が適切でない」、「老木化や樹勢の低下が生じている」「植え替え後の樹の枯死や生育不良」等が考えられた。改植の際に、炭を混和することで初期生育を向上することが示唆された。開花期の気象条件(降雨の有無、日照時間)と直近7年間の西吉野柿部会出荷量の相関が高いことから、開花期の気象条件が収量に大きく影響していることが考えられた。
- ・スモモ現地巡回指導等を実施し、「若木の枯死対策」、「人工授粉等による着果安定対策」、「鳥獣被害対策」等が安定生産に必要であると考えられた。また、若木の衰弱や枯死について、R2年に土壌改良資材を投入した展示圃では枯死せず、周辺の若木2本の枯死が見られた。今後も引き続き、経過観察を行う。



大石早生の葉赤変定対策指導



果樹研究会ウメ部会活動



ウメの土壌改良実証圃の設置と調査

## 普及活動のポイント

- ・ウメ改植の土壌改良資材の現地試験は県果樹研究会ウメ部会活動として取り組み、効果確認とともに速やかな普及につながるよう配慮した。
- ・ウメの現地巡回調査は調査圃場を25園地と大幅に増やして精度向上を図り、気象条件との関係を詳細に調べた。
- ・スモモ安定生産についても土壌改良資材の試験を生産者組織と共に行い、効果確認とともに速やかな普及につながるよう配慮した。

## 対象の変化

- ・炭やアルコールを使った土壌環境改善の効果が実感出来たことから、改植による園地の若返りに取り組む生産者が今後増えると期待できる。
- ・自家和合性品種の展示圃を生産者とともに設置した。受粉や安定生産のための適正な品種構成を考えるきっかけになることが期待される。

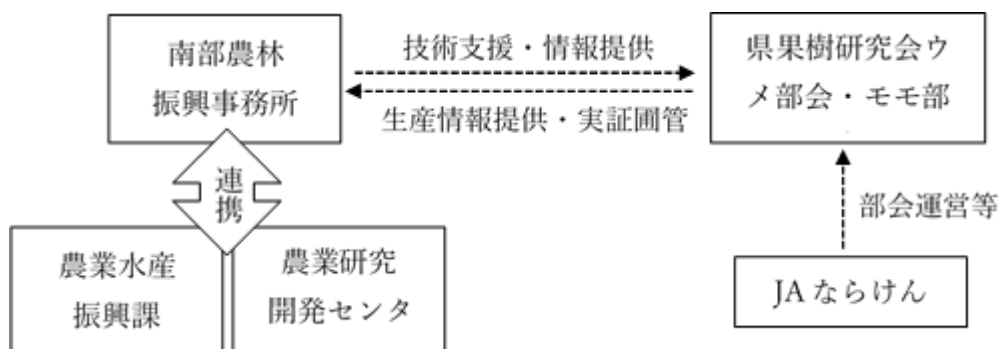
## 対象者からのコメント

- ・炭やアルコールによる土壌改良が苗の生育促進に有効なことがわかったので今後の改植を進める上で大いに参考になると思う。
- ・自家和合性品種の結実はまだだが、今後の成果に期待している。

## これからの活動ビジョン

- ・土壌改良の効果は引き続き調査を続け、成果はタイムリーに生産者組織に伝達する。
- ・自家和合性品種については収量・品質・市場性の調査を続け、産地への導入方針を考える。

## 活動体制



## 用語解説

### 連作障害 (いや地)

モモやウメ、スモモ等のバラ科果樹同士を改植した場合に、植え付けた苗木の生育が抑制される現象。

土壌病害や有毒物質の蓄積、土壌養分の過不足等が原因と考えられている。